

## 鹿児島の植物25

## 天然記念物城山の森

植物担当 寺田 仁志

県立博物館の背後にある小高い丘「城山」は1931年（昭和6年）に国の史跡・天然記念物として指定されています。南北朝時代の山城の跡であり、西郷隆盛の終焉の地としても有名です。

錦江湾側から見ると、すそ野の一部はクズで被われおり、また、緑の中から枯れた枝が飛び出したものが北側にかたまって並んでいることから、この城山が国指定の天然記念物ということに違和感を感じる人もいられるかもしれません。

城山の標高は103m。ゆったりとした遊歩道がついています。この遊歩道は昭和5年から在郷軍人会の手で自動車道として工事が進められたもので、この開発が天然記念物に指定されるきっかけになりました。

西郷さんが亡くなられた聖地で、しかも巨木が繁る自然公園の中に車を通らせるとは何事かということで、激しい反対運動が起きました。その収拾に文化庁が調査を行い、天然記念物として指定しました。このため、道路は完成したものの遊歩道となったのです。

遊歩道を上るとまず、気付くのは、巨木のクスノキ。城山には樹齢400年を超えるクスノキがあちこちにあります。このクスノキは植林されたものといわれています。クスノキはかつて高貴な木として仏像の素材、神社や仏閣の建築材に使われました。また、防虫剤や火縄銃の爆薬原料である樟脳しょうのうが含まれているため、軍事や生活への利用を考えながら島津氏が植えたことが考えられます。

ところが、城山は殿様が住む鹿児島城（鶴丸城）の裏山となっていたため、警護上の理由で入林を厳しく制限され、一般人が森の中に入ることは許されませんでした。このため



着生植物の多い城山のクスノキ

明治になって殿様の領地が国有化されるまで人の手が入らず、街に近い山であれば薪や落ち葉をとったりする里山になるはずですが、クスノキも伐られず、次第に自然林に近い森となってきたのです。



## 城山が発見地のサツマイナモリ

尾根や斜面には自然林といわれるスダジイの森が発達しています。自然林は限られた光を有効に利用するため階層構造を造ります。一番上の高木層は巨木になったスダジイやオガタマノキ、クスノキです。その下には亜高木層、低木層がつづきます。バリバリノキやバクチノキ、ショウベンノキなどおもしろい名前を持つ木々があります。最下層の草本層にはヘゴやシロヤマシダ、シロヤマゼンマイなどのシダ植物やナギラン、サツマイナモリ、ヤマゴンニヤクが見られます。また、クスノキやスダジイの幹にはボウランやキバナノセッコクなどのラン科植物等が着生しています。

城山は東アジアを代表する典型的な照葉樹の自然林があり、豊かな森林植物相をなしています。なお、シロヤマシダ、シロヤマゼンマイ等の名はこの地で発見されたことによります。

また、この森は空襲や大火の時、延焼を食い止め、市民の生命や財産を守ってくれました。特に北側の錦江湾面に見られる枯れた枝は昭和27年4月の大火を止めたクスノキ先端部です。樹幹は枯れていますが根元はしっかりと息づいています。

ところで、城山の森は今、外来種の侵入を受けています。周辺からモウソウチクが忍び込み森が壊されつつあります。また、昭和40年代から豪雨時に崖崩れが頻発し、法面保護をするために使った植物をはじめ、それに混入して多くの植物が侵入してきました。

天然記念物は世代を超えて引き継ぐ自然遺産です。鹿児島市民に身近な城山、四季の自然にふれながら、世界的にも貴重な自然を足下から感じてみませんか。